

NEWS RELEASE (令和4年12月15日) **取材依頼**

ロボット手術センターを設置

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては、大変お世話になっております。

このたび、ロボット手術センターの設置に伴い、下記のとおり記者発表を開催しますので、ご案内いたします。

なお、記者発表にご出席いただく場合は、大変お手数ですが、12月19日(月)17時までに、鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係 へ申込みのご連絡をお願いします。

【目的】

手術支援ロボットは、執刀医と腹腔鏡の間にコンピューターを介在させることで、良好な3次元の腹腔鏡カメラ視野のもと、腹腔鏡鉗子を手ブレなく、まるで自分の手のように精緻に動かすことを可能とした腹腔鏡手術支援システムです。術後は1cm未満の鉗子を通した傷跡が数個残るだけですので体への負担が少なく、早期に社会復帰できるという恩恵を患者さんにもたらしめます。

当院では、2017年より稼働させてきた米国製の手術支援ロボット「ダヴィンチ(da Vinci®)Xi サージカルシステム」に加え、今年から国産手術支援ロボットである「ヒノトリ(hinotori™)サージカルロボットシステム」を導入しました。そこで、12月から当院に“ロボット手術センター”を設置することで、診療科や職種(外科医・麻酔科医・看護師・臨床工学技士等)横断的に、ロボット手術に関する問題点や新情報について垣根を越えて共有し、緊密に連携することを目的としました。

センター設置により、ロボット手術の安全かつ効率的な運用、新規技術のスムーズな導入がさらに容易となり、患者さんへ“安全な低侵襲手術”という恩恵を今まで以上にお届けできると確信しています。

センターでは、先進的な取り組みも行います。ヒノトリは遠隔医療のモデル実験に用いるロボットとして、現在本邦で唯一選ばれた機種ですが、離島を抱え広大な医療圏を有する鹿児島県にとって、遠隔手術は非常に魅力的な地域間医療格差を埋める取り組みです。当センターでは、まず遠隔による手術見学・指導を入口に、最終的には鹿児島大学病院からの遠隔手術を目指した前臨床試験も予定しています。また、ロボットシステムを通じた若き外科医・研修医・医学生への教育も当センターが取り組む研究プロジェクトの一つです。精緻な3次元画像を通して見学できる執刀の実際は、従来の外科教育にはなかった新たな手術技能の伝承手段で、より有用なロボット手術教育システムの開発を通じて、現在の外科医不足の問題解消を目指します。

【経緯等】

本院では、2017年4月より米国製の手術支援ロボット「ダヴィンチ(da Vinci®)」の最新 Xi システムを導入し、泌尿器科、婦人科、呼吸器外科、消化器外科の各診療科でロボット手術を精力的に行ってきました。その後、国産初の手術支援ロボットである「ヒノトリ(hinotori™)」が開発され、2020年、泌尿器科手術が保険適用となりました。2022年12月からは婦人科と消化器外科にも保険適用が拡大さ

れましたが、当院産科婦人科の小林裕明教授は京都大学、神戸大学の教授とともに、国内普及のための初代指導者に指名され、共同臨床試験締結のもと、本院にヒノリスシステムが導入されることになりました。すでに11月22日には当院泌尿器科で九州としては2施設目の前立腺全摘出術が行われ、12月2日には婦人科で世界初の子宮全摘出術が行われました。

加えて呼吸器外科では、肺がん、縦隔腫瘍など保険適用の全術式を計3つの傷口で行う低侵襲化ダヴィンチ手術を進めており、これも世界初の取り組みとなっています。消化器外科では、国内でも卓越した成績を誇る腹腔鏡手術の技術をダヴィンチシステムに反映させ、食道、胃、大腸、直腸、胆嚢・膵臓の手術を精力的に行っており、これに近々開始される肝臓手術が加われば、全てのロボット保険適用術式を提供できる九州内でも稀有な施設となります。また、小児外科では、手術ロボットや鉗子に関する主に研究・前臨床試験の分野で、常に国内をリードしてまいりました。

このような背景をもとに、この度“鹿児島大学病院ロボット手術センター”を開設しましたが、本センターは患者さんにとって体に優しい安全な手術を届けるだけでなく、高度かつ先進的な医療の実践、優秀な医療人の育成に寄与してまいります。県民の皆様のご期待に沿えるよう、最大限の努力をしてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

【記者発表】

1. 日時：令和4年12月20日（火）15:00～
2. 場所：鹿児島大学歯学部 大会議室 【医歯学総合研究棟1（歯学系）3階】
3. 出席予定者：鹿児島大学病院 病院長 坂本 泰二（さかもと たいじ）教授
同 ロボット手術センター センター長
産科婦人科 部門科長 小林 裕明（こばやし ひろあき）教授
同 ロボット手術センター 副センター長
泌尿器科 部門科長 榎田 英樹（えのきだ ひでき）教授
同 小児外科 部門科長 家入 里志（いえいり さとし）教授
同 消化器外科 部門科長 大塚 隆生（おおつか たかお）教授
同 呼吸器外科 上田 和弘（うえだ かずひろ）特任准教授
同 手術部 田川 和美（たがわ かずみ）看護師長

同 副病院長（経営分析・広報担当） ●司会になります。
医療情報部長 宇都 由美子（うと ゆみこ）特任教授

- ◆取材の際は、医療機関内という環境を考慮いただき、新型コロナウイルス感染症対策のため、**手指衛生、不織布マスクの着用、体温の確認(37.5℃未満)を厳守**願います。

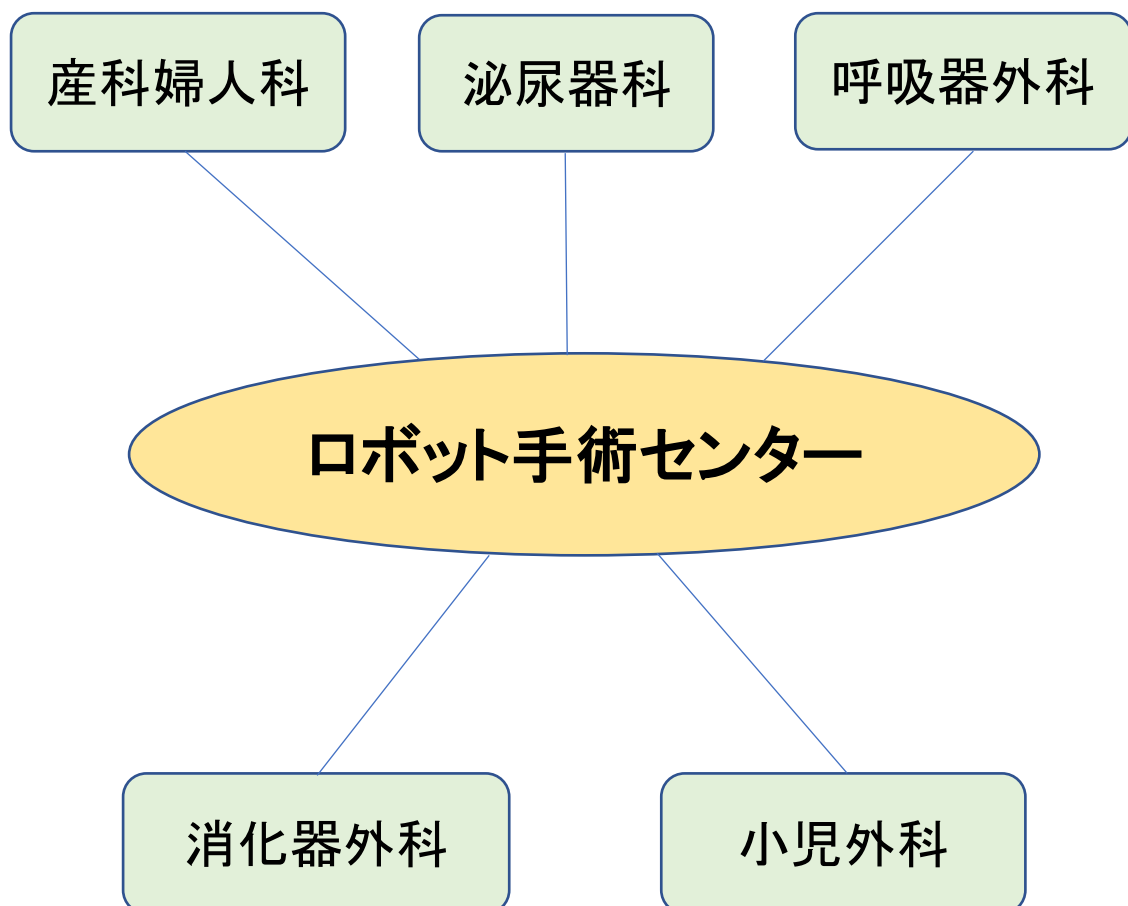
【問い合わせ先】

（診療内容に関すること） 小林 裕明 教授、戸上 真一（とがみ しんいち）准教授
産科婦人科 医局
TEL:099-275-5423

（報道・広報に関すること） 鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係 小山（おやま）
TEL:099-275-6710
メールアドレス：kufsyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp



鹿児島大学病院でのロボット手術の様子



ロボット手術センターは病院長の管理のもと、中央診療施設として診療科・職域横断的にロボット手術の技術や課題、知見を共有することで、手術の安全かつ効率的な運用、新規技術のスムーズな導入、質の高い医療の提供や研修医・医学生教育の向上等を実施することを目的に運用します。